

資料 1

平成 28 年度 第 2 回志摩市里海創生推進協議会 議事録

日時：平成 28 年 10 月 24 日(月)午後 2 時～4 時

場所：志摩市立図書館 2 階 展示室

事務局

それでは、皆さんお揃いになられたようなので、少し早いんですが、平成 28 年度第 2 回の志摩市里海創生推進協議会を始めさせて頂こうかと思えます。本日の協議会なんですけども、都合で松田委員、福田委員、坂下委員の 3 名の方が、欠席とのご連絡を頂いております。また、オブザーバーで、毎回来て頂いております海洋政策研究所から大塚研究員にお越しを頂いておりますので、ご了解ください。

先程ご説明させて頂いておりますお手元のお配りさせて頂いた資料なんですけれども、席次表と一緒にしておりました方が今日追加でお配りさせて頂いた資料になります。それから、事項書と一緒に取りまとめさせて頂いたのが先日お送りさせて頂いた資料と差し替えをお願いさせて頂きたい資料ですので、差し替えの方をお願いしたいと思います。あと机の上に里海創生基本計画を一部ずつ置かせて頂きましたが、会議の間に参考としてご覧頂くということで置かせて頂きましたので、会議が終了しましたら又回収させて頂きますのでよろしくお願い致します。それでは、この後、会長の進行で、よろしく申し上げます。

高山会長

お忙しいところご苦勞様です。今日は、28 年度第 2 回ということなんですが、もっと大きくいうと、第 2 期第 2 回ということになりますね。ですから、どういうことを進めないといけないのかということをお前の第 1 回から引き続きやっているわけなんです。前回申し上げたことなんですが、2 つの大きな約束があるということで、一つは「関係者がそれぞれ連携して恩恵を得る。」という特徴がある。それは、今話題になったのですが、先週の NHK ナビゲーションでというところで、真珠のピンを作るのに今まで交流がなかった関係者が連携して注目を浴びたという番組がありました。我々が言ってきたことが、具体的にになったなというふうに思います。もう一つは、「市民それぞれが連携して恩恵を得る。」ということですね。この点は、ちょっとまだ足りないかなということで、さらに第 2 期は、これを強めていきたい。例えば実績集というのを毎年出しているんですが、そこに載っていない市民の活動も結構あると思うんですが、そういう人にも声を掛けながら、巻き込んでいくことが第 2 期の課題なのかな。それからもう

一つ前回から始めていることなんですが、取り組みの項目をもっと絞っていこうということなんです。そもそも150も列記している計画書を実行するのは、なかなか難しい。ですから絞っていくという考え方で実は第1期から3つの具体的重点的取り組みというのは、絞ってきたんですね。干潟再生とか里海学舎とかテキスト化とか絞ってきました。ですけど、3つでは少なすぎるわけですので、さらにいくつか増やしていくという考え方で、前回ワークショップをやって、項目が絞れたんですね。そして、作業部会をその間やって具体的なアイデアも出てきました。それが、今日資料で、後で出てきます。ですので、その資料を見ながら今日はもう少しここで、どういう取り組みに絞っていくか具体的に絞ったものを具体的にやるというのはどういうことなのかというところを比較的ざっくばらんに議論出来たらなということが、今日の課題だというふうに考えています。ということで、よろしく願い致します。

それでは、事項書に添いまして進めていきたいと思います。では、2番からよろしく願い致します。

事務局

それでは、事項書2番になります。第2回協議会の協議のねらいと獲得目標についてから説明させていただきます。お手元にお配りした「第2回里海創生推進協議会の協議のねらいと獲得目標」についてA41枚の資料をご覧頂きたいと思います。本日のねらいと獲得目標3つ設定させて頂いておりまして、1番と2番につきましては、毎回行っている内容となります。前回の協議会から今回の協議会の間に行われてきました里海創生に向けた様々な取り組みがありますので、どういう事が行われてきたか又、これからどういう事が行われる予定になっているか皆さんで共有をしていただこうと思います。

それから2番目高山会長のお話しにもありましたけれども、第1期から重点事業として進めてきた3つの取り組みがありますので、これの進捗状況についても情報共有して頂いて、又進め方について皆さんからご意見を頂ければと思います。

3番目が今日のメインのねらいと獲得目標になりますけれども、前回優先項目を3つに絞って頂きまして、それに向けて作業部会を開催しまして、現状と課題の把握それからこうすればいいんじゃないかという提言を作成させて頂いておりますので、これを踏まえて、今後皆さんでどういうことに取り組んでいくのかということをご議論いただければと思います。以上3点となります。

高山会長

ということで、今日はこの3点を中心に進めていきたいということで、よろしく願い致します。特にこのまとめ方に関して何かありますか。よろしいでしょうか。それでは、3番の方にいきたいと思います。

事務局

それでは、事項書 3 番になります。お手元に前回の第 1 回協議会議事録をお配りをさせて頂いているかと思えます。お目通し頂いて、修正意見等ありましたら事務局の方まで後ほど修正意見を頂ければと思えますのでよろしくお願い致します。

高山会長

はい、何か文言上とか気になるところ、こんなこと言ってないとかいうことがありましたら、今もしくは後ほど言って頂いても結構なのですがよろしくお願い致します。

では、特にございませんようですので、ご確認頂くという事で、今日は 6 番の方で時間を取りたいと思っておりますので、4 番の方に移りたいと思えます。

事務局

それでは、事項書 4 番の「取り組みの状況と成果」及び「今後の予定」ということで、まず資料 2 - 1 をご覧ください。

資料 2 - 1 につきましては、前回の協議会以降に行われました取り組みについて、事務局で把握できている限り項目ごとにまとめたものです。

自然の恵みの保全と管理につきましては、安乗の人形芝居など、秋の伝統行事などが行われましたほか、里山管理の研修会なども開催されています。

自然の恵みの持続可能な利活用につきましては、里海マリンフェスタや伊勢志摩ツーデーオークなどのスポーツイベントのほか、学校での里海学習、里海ガイド養成講座、津波避難計画の策定などに着手しています。

まちの魅力の向上と発信については、小学生がまち歩きを行う「ぶりぼら」事業の実施のほか、名水サミット in 志摩の開催や真珠祭などが開催されています。また、先日 NHK の番組で、三重県真珠振興会など真珠産業の振興に取り組んでおられる皆さんの特集番組が放送されました。2 - 1 の説明は以上です。

よろしければ委員の皆さんから補足をお願いいたします。

高山会長

この書かれている事に関して具体的に関わられた方からの補足とかがありましたら、よろしくお願いいたします。資料 2 - 1 に関して特に補足はないということで、よろしいでしょうか。では、順調にいったようで無いということで、今後の予定をお願いします。

事務局

資料 2 - 2 について概要を説明させていただきます。

自然の恵みの保全と管理につきましては、11 月 20 日から 22 日まで、伊勢志摩国立

公園 70 周年記念式典と全国エコツーリズム大会 in 伊勢志摩が阿児アリーナで開催されることになっています。

自然の恵みの持続可能な利活用につきましては、ウォーキングなどのスポーツイベントのほか、和具で伊勢海老一日オーナーイベントや年末海族市が開催されます。また、市立学校での里海授業や、市内を歩きながらゴミ拾いをする「テクトクトレッキング」なども開催されますので、ぜひご参加を頂けたらと思います。

まちの魅力の向上と発信については、現在重点的に取組みを進めている海女と真珠に関して、海女サミットや真珠品評会が開催予定となっています。よろしければ補足をお願いいたします。

実は、今日追加のチラシで、伊勢志摩国立公園指定 70 周年記念先程説明させて頂いたものともう 1 部が志摩をぐるっとテクトクトレッキングのチラシを配布させていただいております。もし、このことで、雨宮委員さんの方とかテクトクトレッキングは市民生活部の方が主となっておりますので、何か補足することがあれば、よろしくお願ひしたいと思います。

雨宮委員

志摩自然保護官事務所の雨宮です。伊勢志摩国立公園指定 70 周年記念式典・全国エコツーリズム大会について補足させていただきます。11 月 20 日が伊勢志摩国立公園指定からちょうど 70 周年の記念日になりまして、この日に記念式典と全国エコツーリズム大会というのを開催します。記念式典の中では、涌井史郎さんという方にお越し頂きましてこの方は、先日伊勢志摩国立公園ナショナルパークのモデル地域に選ばれたわけなんですけど、そうした有識会議の座長をやっておられた方です。そういった方に、今後のナショナルパークとしてのビジョンなどを話して頂こうと考えています。又、そのあとに全国エコツーリズム大会 in 伊勢志摩としまして、全国でのいろんなツーリズムに取り組んで頂いている団体の方にお越し頂いてそういう方たちにパネルディスカッションや、あとは日本エコツーリズム協会の副会長などにもお越し頂いて講演を頂く予定です。11 月 21 日にはエクスカーションとして、伊勢志摩エコツアーが企画されていまして、こちらの方も興味があればご参加いただければと思います。ともに、11 月 11 日まで受付という形になって、インターネットでの受付なんですけど、興味がありましたらよろしくお願ひします。

岡山委員

市民生活部の岡山と申します。よろしくお願ひ致します。うちの方はですね、志摩をぐるっとテクトクトレッキングということで計画しておりまして、日時の方は、11 月 6 日の日曜日ということで申込みの方の締切がちょうど明日 25 日までとなっております。現在のところ申込数が少ないような状態で周知期間等ももっと設けた方が良かったか

なと思うところもあるんですが、又参加の方よろしくお願い致します。内容としましては、トレッキングコースを3つほど設けまして1つは金毘羅山周辺御座5k「近畿自然歩道を知ってるかい？」というコースを設けまして、こちらを歩いて頂くと・・・こちらの参加者が5名程度の申し込みしかございませんで、困っている状態です。2つ目が横山周辺の「英虞湾のパノラマを3つの展望台から見てみよう」コースということなんですけど、こちらの方は申込みの方はゼロ人となっています。3つ目が磯部の恵利原の逢坂峠古道周辺ということで名水を訪ねるといことで天の岩戸周辺をウォーキングコースにしておりますこちら5kということで今参加者数は10名集まっていますので、これを中心に行いたいと考えております。また、70周年記念に乗かってやるということで計画したものですので、クリーンアップ活動も兼ねてやって頂いて、こういった志摩の魅力を周知していく活動の一つと捉えております。ただ、申込み期日が迫っておりますので、又参加等がございましたら是非出席の方よろしくお願ひしたいと思います。私の方からは以上です。

高山会長

はい、ありがとうございます。他に補足ありますか。

西尾副会長

直接関係ない話になるかもしれませんが、2つあります。1つは、11月の5日の日なんですけど、阿児アリーナで阿児町防火協会が主催をさせて頂いて子供たち中心の防災フェスタを開催させて頂きます。実は11月というと文化の日ということで、中では町展ということで絵とか書道とか展示させて頂いてそして外ではそのような企画をすることで沢山の方に来て頂ければと思います。少し出店も出ます。子供たちに消火器の使い方・紐の結び方・ロープの渡り方とか地震体験車とかいろんな形ですということがある意味コラボレーションしているという、文化協会さんとコラボレーションした形の企画をさせて頂いておりますので、是非ご覧頂ければというのが、1つです。もう1つは、11月6日テクトクトレッキングの日なんですけど、NHKラジオ全国放送で午後1時から3時の間で生放送で、志摩の方の「ほっこりするおもてなし」というテーマで取材に来て頂きます。場所は賢島フィッシングセンター海遊園さんの方をお借りしましてバーベキューが食べられるということと釣堀があるということで、釣堀をされてバーベキューを申し込まれるとそこでお刺身にしたり焼いたりして提供して頂けるという中で、実はアマナムの方から結構要請があって海外のお客様が利用されている。本人社長が英語がしゃべれないので勉強しておけばよかったと、今猛特訓しておられますけれども、そういったところに観光協会がサミットで4名通訳された方の2名が協力して頂いて今後そういったサポートしていくという取り組みをご紹介させて頂くということで、生放送なので、ラジオを聞いて頂ければと思います。以上です。

山際委員

真珠業者が参加することを報告させていただきます。このエコツーリズムの伊勢志摩国立公園指定70周年この20日の日にこの協会から要請があって真珠の貝むき体験を行います。時間はまだ詳しいことはわかりませんが、一応申込みがあった人は優先的に参加してもらって出てきた玉はもらって頂けます。それから先程も事務局から言いました真珠の品評会、これ三重県の真珠養殖業者が貝をむいて真珠の出来栄を展示するイベントが12月3日阿児の商工会で行われますので、見に来るのは自由ですので、よろしくお願いいたします。以上です。

高山会長

はい、ありがとうございます。他はどうでしょうか。先程のナビゲーションの話は全員ご存知でないで、あとのワークショップの時にご紹介させていただきます。はい、よろしいでしょうか。もう1個ありますか。

事務局

もう1枚里海ガイド養成講座のチラシを入れさせて頂いているかと思います。後の資料3とも関係する話ですが、12月にこういう講座を予定していますので、ガイド養成絡みで又ご興味のある方は、ご参加を頂ければと思います。

高山会長

それでは、次の議題に移りたいと思います。5番具体的な取り組みの進捗についてですね。

それでは、よろしくお願いいたします。

西尾副会長

それでは、具体的な取り組み状況と成果等ということで、まず資料3-1里海学舎構想に関する作業の進捗状況等についてご説明させていただきます。取り組み状況と成果等ということで、まず1つ目は、日本財団「渚の交番プロジェクト」についてということで、今年度9月に渚の交番準備事業として採択を受けまして事業を始めております。事業の内容と致しまして学校と連携した体験学習プログラム及び一般向けツアー企画・実施、ガイドの育成やプログラムの開発・実施などということでございます。又、2番目に英虞湾利用環境向上のためのコミュニティ構築というような事を行って、勉強会などを行っています。平成29年度の予定と致しましては、ソフト事業とハード事業がございまして、ソフト事業としましては、ガイド養成や体験事業の実施、海の利用に係る情報発信ということでございます。又、ハード事業に関しましては、渚の交番施設の設計と建物の建築という事を行ってまいります。

平成 28 年度里海学舎構築業務については、8 月 1 日・2 日に京都府生物教育会臨海実習を行って頂きました。書いてあるとおり、8 月 1 日・2 日と以下のような見学をしたり体験をしたりして頂いております。又、いろんなアコヤガイのこの体験がいろいろと高いレベルの評価を頂いたということです。それから、アコヤガイを活用した解剖教材の確立についてということで、三重大学との連携で今検討しております。それからガイド養成に向けた研修テキストの作成については、9 月 3 日から 19 日の間に 5 日間のガイド養成講座を開催しまして、15 名が参加して頂きました。今後、又このようなガイド養成をして、特に海に関する部分の案内であるとか、又危険が伴いますので、救急救命安全を考慮した部分のこういう形でという大枠を勉強して頂いてそれをテキスト化していくという実施をしております。今後の取り組みですが、1 つ目、日本財団「渚の交番プロジェクト」についてということで、渚の交番運営委員会に外部専門家の参加を検討し、より魅力的な事業展開について検討していきます。又、人と自然の共生という視点から、志摩市の自然環境や産業について説明することの出来る里海ガイドの養成と、ツアーを展開していきます。2 番目として、平成 28 年度里海学舎構築業務の実施、アコヤガイを活用した解剖教材を使用し、市内の学校を対象に授業に導入することを検討するとともに、教材の販売ルートを検討していきます。第 1 期の里海ガイド養成講座の反省を踏まえ、第 2 期里海ガイド養成講座を開催します。先程のチラシにもありましたけれども、ガイド養成のテキスト化の充実を図っていきます。

次のページは、参考資料としてこういった活動計画をしておりますので、ご覧頂ければということでございます。以上です。

高山会長

里海学舎についても、様々な取り組みが振興し始めているところだというふうに思います。何かご質問とかありますか。よろしいでしょうか。はい、それでは、第 1 期から具体的な取り組みというのを 3 つ設けておりますが、2 番目ということで、3 - 2 の説明をお願いします。

稲田委員

それでは、地域資源テキスト化に関する作業の進捗状況につきまして、産業振興部の方から説明させていただきます。まず、きんこのテキスト化でございます。きんこのテキスト化については、平成 28 年 3 月に完成を致しました。このテキストを活用して、新たな商品化を始める前提として、安定した生産体制を構築することが必要だということが改めて認識されましたので、今年はきんこ塾を開催しております。これは、芋の栽培から加工まで実践して新たなきんこ生産の担い手を作っていくということで、始めさせて頂いております。これと併せて、ここには書いてないのですが、ウイルスフリー苗といって所謂病気に侵されていない苗を生産者に配布を致しております。農協さんに多大な

ご協力を頂いております。続きまして、アカモクのテキスト化でございます。アカモクの資源分布や持続可能な漁獲方法などのデータ収集ということで、志摩市と外湾漁協、三重県水産研究所さん、伊勢農林水産事務所さんの協力をいただきまして、引き続き生息範囲や資源量の調査を行っています。あと場所によっては、漁獲時期が違いますのでその辺の調査も併せて行っています。既に試験操業を行っている浜島・波切・船越・安乗の4地区以外に新たに布施田・甲賀・志島の3地区からも参加の申し出がありました。今年からここも含めてとりかかっていたいと予定をさせて頂いております。アカモクの成分分析でございます。栄養価・健康面をクローズアップした内容のパンフレットを作成するための「6次産業化調査研究業務委託」ということで、立命館大学との共同研究でアカモクの成分分析を実施しました。としまして、アカモクの需要に関するマーケティング調査ということで、志摩市商工会から情報提供のあった業者へ「アカモクの需要量調査」を行い、需要量が予定生産量を上回るアンケート調査結果を頂いております。アカモクないか？という問い合わせはちよくちよく入っていますけれども、生産が追いついていないという現状でございます。

これまでの取り組みの成果として、乾燥アカモクが志摩ブランドの認定を受けたことにより、情報発信の幅が増え、需要が喚起されている。伊勢市外宮前広場で開催された「うましくに伊勢シェフクラブ主催」の食の祭典で、アカモク入りのソーセージを販売しました。それから津駅のラーメン店の麺や市内の旅館で提供されるうどんにアカモクの粉末が添加されるなど市民でも少しずつではありますが、アカモクが地域の食材として認識され始め需用が増えていることを確認しております。問い合わせの方が多くてちょっと生産が追いついていないということで、新たに3地区加わりますので来年度の春はもっと採れるのではないかとちょっと期待をさせております。

今後の取り組みとしましては、(1) きんこにつきましては、商品の開発による販路の拡大を図る前提としまして、生産量の確保が課題ということで、生産の担い手の増加を図ることを目的に関係団体等と連携しながら「きんこ塾」の取り組みを継続して生産者の確保を図っていきたくと思っています。これは、農協さんと手を結んで一生懸命やりたいと考えております。(2) のアカモクのテキスト化ですが、テキスト化に向けたデータの蓄積を継続しながら12月14日から16日まで、東京ビッグサイトで開催されるアグリビジネス創出フェアに参加し、志摩の未利用資源として広く情報発信をする予定です。(3) としましては、志摩ブランドとしまして、平成28年度の志摩ブランド認定を行い、商品一覧のパンフレットを作成したいと考えています。アンケート調査を実施して、志摩ブランド認定商品の生産販売状況などの把握、それから志摩ブランド認定業者と協議を行い、商品販売の現状把握、課題の解決に向けて検討と支援を行っていきたくと思っています。現在13品目が志摩ブランドに認定されています。今後販売の促進に努めていきたくと思っています。以上です。

高山会長

はい、ありがとうございました。関連で真珠のテキストのようなものが出来たんですね。始まる前に皆さんに本を閲覧したらどうかと浦中さんに言ったら、たまたま探したら見つからなかったということなのですが、それは前回は紹介しましたので、もう繰り返しはないと思いますが、真珠はあるということと、安乗ふぐもブランド化する時に、説明冊子を作りましたよね。私は読んだ記憶があるんですが……。そういうふう色々出来ている。三重ブランドで5品くらい志摩市はあるんですよ。実は三重県で市単位で多いのは、志摩市でそういうのもどンドン作ったらいいんじゃないかなと思っていますので、さきほど副会長に相談したらそういうつもりだというお話だったので、今後出来てくるのではないかとこのように思います。はい、では、3番ですね。川口委員さんお願いします。

川口委員

よろしいですか。資料3-3をご覧いただきたいと思います。干潟藻場の拡大に関する作業の進捗状況ということでございますが、10月2日に和具地区で4か所目となる干潟再生をということで、開始させて頂きました。立神石淵、登茂山のアクアヴィラ、合歡の郷と3つあったんですけども、今回4つ目ということで、和具地区の旧清掃センターの奥という所でさせて頂きました。和具の干潟再生にあたりましては、地元自治会の皆さんに本当にご協力を頂いて進めさせて頂きました。地域と一体になって取り組みが始まったということで、いい例になっていくのかなということで、是非今後とも進めていきたいなあと考えております。この最後のページに載っているんですけども私も初めて見たんですけどもドロアワモチというなんかボールみたいな変な生物がいました。私も見たのは初めてで、どうもこれは希少なんだということで、こんな発見もあってこういう面からもこういうことを進めていくことはいい事なのかなあと考えています。干潟につきましては、もう少し詳しく事務局の方から説明したいと思いますので、よろしくお願いします。

事務局

補足の説明をさせて頂きたいと思います。部長の方から紹介して頂いたように、和具地区の4か所目の干潟なんですけれども、結構希少な生き物が沢山いるという事を確認しておりますので、これから志摩町エリアの環境学習の場所として使っていただければいいかなというふうに考えています。4か所目になるんですけども今後の進め方のところでは、水門を開けるだけで簡単に干潟になるという場所がなかなか無い中で、やはりある程度制度として買い上げをするのか、トラスト活動するのかという形でどういう形で事業として拡大していくかというのを検討する必要があるなということになっています。又、今後の進め方の(3)のところでは、やはりあさりとか身近な生き物がいること

で、市民の皆さんの興味などが湧いてきて干潟に行ってみようという気持ちが起こるんだらうということで、伊勢志摩国立公園指定 70 周年事業などの機会を通して情報発信したりとか、あとあさがどのくらい採れるのかというような調査をして、より多くの方に干潟の大切さを知って頂けるような取り組みをやっていきたいということで、今後の予定としましても、70 周年記念式典での資料展示ですとか、アクアヴィラでやっていますアオサの収穫体験ですとかあさりの定着状況の調査とかを今後していきたいというふうに考えています。以上です

高山会長

制度として必要だということで、前からちらちらと出てるんですが、なかなか具体的には進行はしていないと思いますので、何か原因らしきものはどこかで出して頂けるとありがたいですけどね。

事務局

まだ、詳細の検討に入る前の段階で、今出せる状態では・・・。

高山会長

ぜひ、どこかで出して頂ければというふうに思います。では、それでは今の報告について。

西尾副会長

すいません。今の話の中でドロアワモチって初めて聞いたんですけど、どんな生き物かよくわかりませんが、せっかくこういう珍しい生き物があるんだったら志摩にマリンランドがあったりとかですね、あるいは海ほおずきもあるので、こういった所で展示が出来るとか、あるいは PR する情報発信するということになると、より多くの人に又地元の方に興味を持って頂いて、干潟の再生というところに取り組んで頂く、あるいは、参加して頂くことが出来るんじゃないかというふうな仕掛けをして頂けるとありがたいかなと個人的に思います。

高山会長

はい、地味ではあるけどかわいい生き物だなあと、まるでキウイのような・・・。大きさは何センチくらいになるんですか？

事務局

大きさは、5、6センチで、ナメクジと海牛の間みたいな生き物ですね。ユーチューブとかの動画ではちょっと揚げさせて頂いていますので、又ご覧頂けたらと思います。

ドロアワモチで検索すると、動画が色々出てきます。

高山会長

なるほど・・・。

事務局

かわいいかは、かなり個人の主観によりますので・・・

高山会長

はい、他にございますか。よろしいですか。はい。では、そういうことで、一番時間を取りたかった6番に移りたいと思います。では、6番の説明よろしくお願いします。

事務局 大形

失礼します。前回の推進協議会の方で委員さんの方でワークショップをして頂いて優先項目という事で、資料4になります。

優先項目1つ目である「自然の恵みの保全と管理 伊勢志摩国立公園としての適切な自然の利用と景観の保全」について、どのように伊勢志摩国立公園の自然の利用と景観の保全をしていくべきかについて話し合いました。この項目は、新しい里海の恵みを市民みんなが生かすまちづくりを進めていく上で、一番優先しなければならないということで、作業部会委員の皆さんから多くのご意見が出されました。

それでは、初めに作業部会で話し合われた概要をご報告させていただきます。

まず、伊勢志摩国立公園の「環境保全の意識、適切な利用・保全、景観への規制」について大きく3つの問題が出されました。1つは、「環境保全の意識」についてですが、住み慣れていることで、伊勢志摩国立公園への意識が低く、また、ポイ捨てゴミが多くなってきている。次に「適切な利用と保全」について、伊勢志摩国立公園は、96%が民有地という特徴的な国立公園ですので、開発等の規制をすることが難しく、自然景観の保全及び適切な利用をすることへの大きな問題となっています。自然が保たれた景観を資源とする商工・観光業の従事者と従事者以外の市民や山林・遊休地等の地権者では、環境の保全をすることや適切な利用をすることでのメリットの感じ方が違うという問題があります。最後に「景観への規制」についてですが、眺望エリアにおいて、景観を損ねる看板等の設置についての県の屋外広告物条例等はあるが、景観を維持するには十分でないことや、山林・遊休地が有効利用されていないという問題があります。

この3つの問題を踏まえまして、現状と課題、提言を3点にまとめました。

資料4の1ページ目をご覧ください。「現状と課題」は、

市民が伊勢志摩国立公園の素晴らしさについて学ぶ機会が乏しく、また、住み慣れて

いるがゆえに、日本を代表する自然環境で生活していることの意識がされづらく、伊勢志摩国立公園で暮らしていることへの誇りの欠如が否めません。これによりゴミのポイ捨てなどまち全体の魅力の低下を招いている現状があり、国立公園に暮らすことへの誇りや美化意識の向上を図ることが必要です。

伊勢志摩国立公園の景観や自然環境は市民の暮らしや経済活動などにより変貌しつつあり、国立公園の資源として維持できるか危ぶまれています。国立公園の資源を保全することや適切に利用することの価値を伊勢志摩国立公園の形成に関わる人が共有または共感できる取り組みが必要です。

再生可能エネルギー事業(太陽光発電所等)による開発行為が増加しています。また、眺望エリアにおいて、伊勢志摩国立公園としての景観に調和しない看板等があるため、法規制や地権者が景観を保全するという意識の醸成を図るようにする仕組みが必要です。

次に、これらの課題の解決に向けた取り組み内容を提言します。

市民の意識向上・普及啓発については、伊勢志摩国立公園としての美観・景観を大切にするという市民の意識を向上する(理解を得る)為のイベントの開催や、小・中学校で伊勢志摩国立公園の素晴らしさを伝える学習機会を増やすことで、伊勢志摩国立公園で暮らしていることへの誇りを醸成すること。

国立公園の自然の恵みを生かす仕組みの構築については、エコツーリズムや観光ガイド業などを推進することで、人と自然が共生する景観を資源として利用する観光・商工業に従事する人を増やすとともに、従事者以外の市民や地権者が景観を守ることの利点やその役目を担うことに価値を見いだせるような仕組みや啓発の取組みを検討すること。

問題となっている開発行為に対する新たな保全措置の検討については、太陽光発電所や看板の設置等が伊勢志摩国立公園の良好な景観に与える影響を低減するため、国・県・市の関係法令をすり合わせ、必要なルールづくりを検討すること。また、法規制のほか、農林業を活性化することで遊休地を減らしたり、トラスト制度の導入を検討し、地権者による国立公園に相応しい土地の利用・保全を推進する。

今回の作業部会での議論を通して、伊勢志摩国立公園の環境の保全をすることで、「稼げる・学べる・遊べる」里海のまちへとつながることを再認識できたと思います。

これで、1.自然の恵みの保全と管理の(2)伊勢志摩国立公園としての適切な自然の利用と景観の保全についての提言の説明を終わります。

高山会長

それで、補足しますと、参考資料というのが、A3の形で付いてまして当日のワーク

ショップで出た具体的な提案がずっと書いてあります。そのワークショップの良さとはい、具体性が出るというところに良さがあってそれを一般化して今のようにまとめると、逆に良さが消えてしまうきらいもあるので、併せて読んでいただくといいなあ、そういう資料になっています。短い時間で読めというのも難しい話ではあるんですが、一応そういう形になっているということです。じゃあ、2番目ということで、お願いします。

事務局 浦谷

作業部会「産業連携の推進」で出された課題と提言について報告します。次の頁をご覧ください。

まず作業部会で話し合われた概要について報告させていただきます。話し合われた視点は、二つあります。一つは、産業間が連携できる機会の創出、もう一つは、既存産業基盤の強化や産業連携への支援です。

一つ目の産業間が連携できる機会の創出については、観光地である志摩市の特徴を生かし、農林水産業と、製造・加工業、販売業と観光業が連携して「6次産業化」や「農商工連携」を推進していく事が重要であるという事が共通認識でした。現在、関係団体・行政・関係企業等が連携し、産業振興を推進していくことを目的とした志摩市6次産業化推進協議会、オール志摩観光推進ネットワーク会議、志摩市地域ブランド推進協議会等が設置され、6次産業化の推進や、開発された商品の販売促進、里海ツーリズムを推進するための検討などが進められています。

しかし、異なる分野の生産者や事業者が互いに理解を深めて連携し、事業に取り組む事例がなかなか増えてこないという現状があることが話し合われ現在「志摩市地方創生総合戦略」に基いて取り組みが進んでいる「地域の資源を活用するためのプラットフォーム創出事業」や「6次産業化推進事業」、「生産物の販路拡大による農林水産業活性化事業」、「地域の仕事カケモチ型就業推進事業」などのように、生産者や事業者の意欲を向上し、主体的に事業が推進出来るよう、関係団体が連携して、生産者や事業者が直接交流し、情報交換できる機会を増やしていくことが必要であるという意見が多く出されました。

また、これまでに、良い連携の事例も生まれてきています。「あのりふぐ」のブランド化を進めたあのりふぐ協議会の取り組みや、三重外湾漁協和具青壮年部といそぶえ会が連携して実施している「伊勢海老刺し網オーナー」イベント、伊勢志摩サミットの開催を契機と捉え、真珠を『人間と自然の共生の象徴』としてラベルピンをデザイン・提供して世界中に情報発信された三重県真珠振興協議会などの事例を、成功モデルとして情報共有することも必要であるという意見も出されました。

次に、二つ目の既存産業基盤の強化や産業連携への支援につきましては、お手元にお配りしました別添資料4参考資料「優先項目取り組み事業一覧」2-1(5)をご覧頂きたいと思います。こちらにもありますように、すでに多くの事業が展開されていますが、事業開始または拡大しようとする生産者や事業者がそれらの制度を入手できるよう、支援制度の普及啓発にも力を注いでいく必要があると話し合われました。

以上のことから、優先項目「産業連携の推進」においては、次のとおり、「現状と課題」が3点、「提言」を二つの視点をもとに2点にまとめました。

「現状と課題」としましては、まず1点目

志摩市では、活用できる資源の量や生産の季節が限られているため、事業規模が小さくなりがちで、一次製品の加工業者が少なく、生産量の増加や多様な商品開発、販路拡大の検討が難しい状況にあることから、事業者の連携や事業開始に係る支援を継続していくことが必要です。

次に2点目

関係団体・行政・関係企業等が連携して、産業振興を図るための体制づくり(志摩市6次産業化推進協議会・志摩市地域ブランド推進協議会・オール志摩観光推進ネットワーク会議等)が進められ、きんこやアカモクなどを活用した6次産業化のモデル事業の推進や開発された商品の販売促進、里海ツーリズムを推進するための検討などが進められていますが、より多くの分野で生産者や事業者の参加を促し、連携して取り組みを活性化させていくことが必要です。

最後、3点目

あのりふぐのブランド化や、伊勢海老刺網一日オーナーイベント・三重県真珠振興協議会の発足など、良い事例を参考として取り組みを進めて行くことが必要です。

続きまして「提言」です。

第1点目、産業間が連携できる機会の創出については、

産業振興の担い手は生産者や事業者であるという原点に立ち返り、生産者や事業者の事業推進に向けた意欲を向上し、主体となって事業が推進できるようにするために、関係団体が連携して生産者や事業者が直接交流し、情報を交換できる機会を増やすこと。

次に、第2点目、既存産業基盤の強化や産業連携への支援については、

事業を開始または拡大しようとする生産者や事業者を支援する制度等について、情報を提供し、生産者や事業者が既存の制度を活用できるよう促進すること。

以上の2点を提言させていただきます。

これで、2.「自然の恵みの持続可能な利活用」2-1「稼げる里海のまちづくり」(5)「産業連携の推進」についての提言の説明を終わります。以上です。

高山会長

それで、さきほどナビゲーションの話がちょうどこれに関わってくるので、あまり一般論的な話が続くと頭が回らないので、ちょっとそれを簡単に紹介したいと思います。どういう話だったんでしょうか。ナビゲーションで説明された話。

山際委員

真珠の産業というのは、我々真珠養殖業者というのは、ただ真珠の原料を養殖するだけで、あとは養殖した真珠を加工業者に売り渡して、加工業者が製品化していくということで、またその人たちが卸、小売業者に販売して、最終的には小売業者が真珠を販売するという役割分担が決まっていたんですけど、一応今のところ日本の経済状況が悪く国内消費が落ち込む中で、加工屋さんがどういうふうに真珠を販売していくかというところと香港市場に出て、中国とか東南アジアとかヨーロッパも来るんですけど、もう香港で玉を販売して国内では通販で売っているのが本当に粗悪品が多かったりする中で、我々としては、サミットをきっかけに伊勢志摩へ来てくれるお客さんたちが鳥羽とか志摩の小売業者から真珠を買ってきますよね、伊勢志摩の真珠やということで。ところが、実際は私たちが見ても我々が養殖したアコヤガイの三重県産の真珠でなく、あるいは中国の淡水とかあるいは、タヒチの黒チョウガイでも色の悪い、そういった真珠が小売業者に並んでいるんです。我々はそういうのを、どこかで区別しないといけないのかと思って、その流通加工屋さんにしろ小売業者にしろこのサミットをきっかけに来てくれるお客さんたちが、「伊勢志摩で真珠を買ったけどこれ伊勢志摩の真珠やないやないんか。」ということが起こるといけないので、我々が流通小売業者の人に声を掛けて作り始めた。我々としては、小売に出た時に、「これは中国淡水や。」「これは、伊勢志摩の真珠や。」それを区別してほしいなということだけだったんですけども、やはりそこまでいこうと思うと、真珠養殖、伊勢志摩の真珠はどういうふうに養殖しているかとか、そういうことをいちいち説明する必要があるので、それを小売で直接お客さんに接している方たちにやはりそういうことも一つ一つわかってもらわないといけないということで、それで先程言われたテキストとか、それから来てくれるお客さんたちに伊勢志摩の真珠というのはこういう歴史があるんだとかこういう特徴があるんだとかそういうパンフレットも作らせて頂きました。だから、こういうことをなんか我々は原料を養殖してただそれを売っちゃいいんだというだけでは、ここんこの不景気の中真珠の販売価格も安くなっている中でなんとかしようということで、そういう流通の方と手を組んでやってみてそれが結果的には、ラベルピンを生み出して、それから最近では、女子ラグビーのパールズが出来ましたので、そこへパールズという名前が真珠だから一応真珠を付けてもらおうと思ってそういう真珠もパールズへ贈らせて頂きました。だから、そういうことを積極的に今までだったら、真珠養殖業者が玉だけ養殖していればいいという感じだったのが、そこへ一歩踏み出すことでその中で加工屋さんもそれに応えてくれている動

いてくれるようになりました。ただ、これだけやってくると、いろいろ注目されると我々が目の前の英虞湾で真珠を養殖しているんだけれども、やはり海の環境を守っていかないといけないとか、いろいろ我々にも意識を持って頑張ってやっていかないといけないのかなという気がしています。

高山会長

ありがとうございました。裏話みたいな話でしたね。

西尾副会長

少し、外れるんですが、真珠婚って皆さんご存知ですね。結婚30年ということで、あの私が青年会議所の理事長をさせて頂いた時に、ライオンズクラブ・ロータリークラブの会長さんたちと年1回会議をするということでそこで出たのが当時ライオンズクラブの会長さんが宿泊施設の会長さんであったことと、ロータリークラブの会長さんが真珠養殖業者だったということで、真珠養殖業者さんはどちらかというで作る、養殖する側で海を汚してほしくないから観光客はあまり来ていないよというのがその当時話だったんです。宿泊業者さんは、いやいや英虞湾に筏があってこれが英虞湾だからそれもひっくるめて来てほしいという相反するところがありました。なんとかこれを手を組んで出来ないかという話の中で真珠婚という30年に一回のそういう企画をしようと思ったらどうだ、それからその時に養殖業者さん、加工屋さん、小売店さん、卸さんみんなと一緒に真珠のPRをしていこうという話がありまして、今現在は真珠婚国際協会という任意の団体で、年1回11月22日に伊勢神宮の方にですね正式参拝をさせて頂き全国から来て頂いております。前夜祭は、志摩に泊まって頂いて食事をして頂きながらいろんな話を聞いて頂いて又、旦那さんと奥様の方からそれぞれ30年ありがとうという感謝を述べると……。そして神宮に感謝を述べに行って30年ありがとうということで正式参拝して、お神楽をあげて供膳を頂くというような企画をずっとさせて頂いております。これが発祥で鳥羽さんは、いつも毎月30日には真珠婚ということで、ビジネスライクに作られて流行ってきているというふうな状況がありまして、本当にこの地域に真珠というものがすごく大事である、この和を広げていくという1つの考え方で、今回ビジネス的に成功されたのは、本当に山際委員がおっしゃたようにラベルピンというサミットを契機にして頂いたこういうふうなことを今後考えていく必要があるのかなと思っています。

高山会長

はい、こういう連携に関していろんなそのお話が繋がっているということなんですね。それではもう1つ残っていますので、3番目のことを報告をお願いします。

事務局 岩城

優先項目 3 つ目は、「輝き」まちの魅力の向上と発信に向けて、市民や関係者のみなさんが、地域の魅力を認識し共有することや、また、取り組みを共有し、理解を促進することについて、現状と課題を出し合い、そこから見えてくる原因や現状の取り組みに足りていない部分を話し合い、どういったことが必要であるかをまとめました。

それでは、まず、作業部会で話し合われた内容について、ご報告させていただきます。

現状の問題については、魅力を伝える、魅力を向上する前提として、「里海」という自然と人の共生の関係の上に志摩の魅力が成り立っていることを認識することが大切ですが、「里海」という言葉が分かりにくい・里海と自分の関係性が分からない・生活の知恵や工夫は、里海づくりにつながっているが意識されていないことなどが話し合われ、これらの原因としては、「里海」について、誰もが答えられるような簡潔で統一したシンプルな「里海」の説明がないことがあげられました。また、市民が里海に関する情報に興味がない・地元への愛着、誇りが少ないなどの現状もあり、暮らしの中に浸透した知る機会のなさや地域の歴史や地域に継承されている知恵や物語を語る人や語り継ぐ機会の減少が原因の一つとしてあげられました。

問題解決する取り組みとしては、市民の暮らしに溶け込み、市民自らがまちの魅力づくりに関わり、広告塔になることを重要なポイントとして検討されました。

続きまして、まとめました提言書を読ませていただきます。

「現状と課題」及び「提言」については、2つの視点で内容を取りまとめました。ひとつは、関係者にてブランドコンセプトの認識の共有、もうひとつは、市民の理解と誇りの醸成です。

それでは、まず「現状と課題」は、2点あります。1点目、

「里海」の言葉自体は認知度も高くなり、里海でのまちづくりの賛同者も徐々に増えつつあるが、『「里海」とは何か。』という問いに誰もが答えられるような簡潔で分かりやすい表現がありません。「里海」が分かりづらく、難しいと敬遠する市民の存在は否めず、「里海」のイメージの共有や『志摩 = 里海のまち』のイメージを定着するまでには至っていません。「里海」と市民自身との関係性の見える化、「里海」の中で暮らしている自覚の芽生えが重要です。関係者・市民が、人を惹きつける志摩の魅力の共有に向けて、『「里海」とは何か。』、分かりやすく伝えやすい表現の検討やその表現を市民の暮らしの中に浸透する取り組みが必要です。

次に、2点目です。

日々の暮らしの中で「里海」という言葉を目にすることや「里海」に関わることに触れたり、意識する機会がなく、市民がまちの情報に興味を持ち、理解を深めることへのきっかけが十分ではありません。また、地域のルーツやストーリーを伝える人も少

なく、地域に誇りを持つきっかけづくりがあまり図られていないのが現状です。市民がまちの魅力に気づき、理解すること、まちに誇りを持つことができるようにするためには、市民の暮らしに沿った情報発信や地域の歴史や伝承などに触れる機会の充実が求められます。

続きまして、これらの課題を解決するために必要な取り組みを提言させていただきます。

全部で4点あり、関係者のブランドコンセプトの認識の共有に関することが2点、市民の理解と誇りの醸成に関することが2点となっています。

まず、関係者がブランドコンセプトの認識の共有に関することは、

「人と自然との共生が里海」といったシンプルな説明を検討し、様々な機会(消費者、利用者目線で見えるように)で「里海」の言葉の定着やイメージを見える化すること。「(例)人と自然が共生する」里海を市民が暮らしと繋げ、身近に感じるができるよう、まちの魅力やまちの暮らしのあり方を問いかけて考える機会の提供を進めること。

続きまして、市民の理解と誇りの醸成に関することは、

まちの魅力を伝える機会、または魅力を生活に取り込む仕組みを作るなど、世代を問わず市民が暮らしの中で取り組めて、取り組みが見える活動を図ること。

志摩の魅力を語れる人を増やすこと。

以上の4点です。

いろんな機会で「里海」が自分の暮らしとつながることが意識されるようになり、それがまちの魅力であること、そして、まちの魅力を伝えることが自分事になり、市民自らがまちの広告塔になっていけば良いという意見でした。

それでは、3「輝き」まちの魅力の向上と発信の(1)市民や関係者の取り組み目標の共有と理解についての提言の説明を終わります。

高山会長

ありがとうございました。それで、自由討論に入っていくんですが、ちょっと私の方から若干関係したことがあるので、お話をしますと、簡潔な表現が無いということなんですけど、例えばですね、志摩里海ツーリズムホームページというのを見ますと、こう書いてあったんですね。「志摩里海ツーリズムとは、志摩の豊かな自然やそのうえに成り立ってきた伝統文化や産業を体感して頂く旅」といってね、割と簡潔に放出のついたような説明になっていたんです。ですから、無いと言わずに、4年とか5年とか議論してきた中には、宣言も作りまし、あったと思うんですね。ですからそういうものをきっちり探し出していくと見つかるのではないかなあというふうに思います。それから、実は半月くらい前に、家族旅行で志摩に来たんですね。3夫婦が6人で来たんです。

それで、遊覧船に乗りました。賢島の駅からちょっと降りたところの港から70人乗りの遊覧船に乗ってガイドさんの話を聞いたところ、みんな目を輝かせて聞くんですね。そして、終わると拍手が出るんです。すごく楽しいんです。ガイドさんの話がね。それが、ホームページにこんなふうに紹介されています。英虞湾のこと、真珠のこと、おいしい魚貝、海藻のこと、その食べ方、湾内の島々にまつわるエピソード、景勝地や周辺の見どころや行き方、目の前に浮かんでいる島のことも教えてくれたり、この情報量たるや・・・と。船長はよそ行きの声は出していますが、どこかローカルな語り口(怒られそう)情報満載のガイドのバランスが秀逸です。友人曰く、大体志摩の事がわかった、そして寄港の時に起こった乗客の拍手。遊覧船のガイドってすごいぞ。ホームページで紹介されているんですよね。だから、ガイドがないという前に、地元で一所懸命やっている人がいる！ってこと。やはり、そういうふうに、ワークショップって否定的になってしまう帰来が有るんですけど、いいところを発見していくということもすごく大事なんじゃないかと思いました。里海ツーリズムの説明文と国立公園の有り方というのは、結び付くと思うんですよ。志摩市だと伊勢志摩国立公園は私有地が多い、そういう国立公園だ。外国のように自然をどーんと打ち出す国立公園ではない。それをもっと押し出すのが、伊勢志摩型の国立公園で活性化していく方法なんじゃないかというそういう国立公園の有り方論に繋がってくると思うんですね。ということで、いろんな事が繋がりますので。どうぞ、雨宮さんの方から補足を。

雨宮委員

補足ということですが、私自身もワークショップに参加させて頂いて、皆さんやはり国立公園への想いが非常に強いんだなと改めて感じさせて頂きました。環境省の方では、国立公園として特に保護すべき場所として、英虞湾のリアス式海岸沿い、あと上流域にあるある程度まとまった山、登茂山であるとか横山であるとかそういった所を特別地域に設定しているわけですが、そのあたりは規制もありながら農林漁業については、ほぼ許可されるような規制を受けないような手続きさえやればやって頂けるような形になっていて、農林漁業の活性化とそのことを語れる人ですね、ガイドさんであっても、ふらっと一人旅した時に寄った町の方でもいいと思うのですが、それを語れる人をどうやって増やしていくのかですね、そこには、ただ話せるだけではなくて、外から来た人に対してこの地域は観光地であることを意識しながら語って頂くといったことも含まれる、そのあたりが今会長がおっしゃられたような伊勢志摩型の国立公園としての発信の仕方なのかな。

ヒグマが見れますとかクジラが見れますとかそういうことではなくて、この地域の自然一見すると、深みとかはわかりませんが、それを語ってくれる人が沢山いるというのが魅力ではないかなと思います。私が今の話で個人的に思いましたのは、里海というまちづくりがどうしても、わかりづらい、言葉で表現しづらい部分もあるのではない

かということでしたけれども、例えばですが、こちらの志摩市里海創生基本計画の11ページに里海ネット（環境省から引用）という絵が書いてあります。これは、環境省の方でたまにやる手法なんですけど、里海里山を管理するにあたって、この地域にどんな魅力があるのかを一枚の絵に収めるというやり方ですね。言葉でなくても、こういった絵をですね小学生ではなしに、ちゃんとした人を書いてもらって、それを皆で共有するというのも、説明する時に、アイテムとして持っておくとやりやすいのかなというふうに思います。

高山会長

勝手に前振りをさせて頂きました。あとは、ご自由に55分まで時間がありますので、全体ワークショップなんで、小人数なら話しやすいと思うんですが、今日は全体でざくばらんに話をして頂ければ結構かなと思いますので、あとは、各団体に持ち帰って頂いて、自分のところはこういう取り組みが出来そうだということをお話し合ってもらって、次回までに出して頂いて、それをまとめて次回資料として出そうという手順なんです。今日は気楽にいろんな気になったこととか、ああそうだったこととか、どんどん言って頂ければというふうに思います。では、よろしくお願いします。

西尾副会長

では、司会を替わります。皆さんざくばらんに、自分達の活動をまず中心に考えて頂いて、そこでこんな取り組みしているよとか、こういう繋がりが出来たよとか、こういうふうに進んできたよとかそういう話をして頂くといいのかなというふうに思います。全体的なことよりも、自分達が今関わっていることに関して話をして頂く方がより具体的にわかりやすいのかなと思います。何かございましたら、お願いしたいと思います。何でも結構です。時間たっぷりですから。

山際委員

私、真珠養殖業者なんですけど、養殖も不景気で、子育て世代がみんなやめてしまったんやけど、年寄で仕事がきついなあという人たちが、リタイアするんですけどもその人たちが、船で網をかけてみたりとか、イカを釣りに行ったりとか結局は真珠を養殖していた英虞湾で又蟹を獲ってみたりとか中にはミルを採ってみたりとか、そういうふうにやはりずっと関わっているんですね。その人たちは結局は自分たちが海で生活してきたことを又同じように動けるうちは、やってますよね。蟹網かけている人は、「今日は蟹網あかんだ。」とか、「網の深いところの蟹は死んどったから酸欠やぞ。」そういうことを、養殖業者にとって大切な情報を入れてくれるというか、だから本当に生活の中でみんな里海をやっていたと思うんですよ。それと、昔だったら農協さんが年寄が農業で大根を作ったりすると農協の場所でフリーマーケットみたいにやりましたが、皆年

寄がそこへ野菜を持ってきて皆売りよった。そういう場も必要かなという気がする。たまに野菜を買いにいくと、「おれげの大根こんなや。」とかばあさんたちが言っている、そんな話もしながらやはり生活していくという、そういう場が徐々に減っているのが残念やなと思うんやけど・・・。

ただ、それとここへ来るのに農免を走ってくると、そこらじゅうに山を削っているんやけど、あれいったい何になるの？

(ソーラーとの声有り。)

ソーラーになるのか？ こんだけあったらもう海いらんと違うか。もうほんとに次々山削っている。例えば登茂山だったら、赤土だから、山を削ってしまうと雨が降るともろに海に赤土が出てくる。そういう赤土が出てくると、我々真珠養殖貝は全く悪影響やし、他の魚介類もあかんよって、あんなに山をはいだってもいいのかな。ちょっと今思いつくことはこれだけやな。

西尾副会長

ありがとうございます。いろんな意見がありますので、そういった意見を皆さん言っ
て頂きたいなあとと思います。例えば、ソーラーに関してですけれども、副市長なんかは、
逆に止められないと、このソーラー開発に関してはある程度枠があって50メガくらい
つくるだろうと。そしたら逆に、志摩市がそれをエネルギーとして、発電所として考え
て地元の震災が起こった時の発電所をつくったんだという発想に換えてやったらどう
かという案も言われています。環境破壊、ソーラーは、環境にやさしいというけど、つ
くれば環境破壊をしているというふうな問題をどういうふうにか考えるかというのは、非
常に大きな問題であるところなんです。松阪牛を飼いたいということで、広大な土地
でいい事なんです。臭いの問題で住民が反対しました。そのためにそこはソーラーを
しましようという話が逆に出来たりとか、場所が変わるといろんな話になります。いろ
んなところを皆さんが知恵を出し合っていいものを考えていきたいというのがこの場
だと思しますので、いろんな意見を出して頂きたいと思します。他にどうでしょうか。

井上委員

今、ソーラーの話が出ました。私も漁業に関係しまして、浜島から志摩の国、今現在
外湾漁協で20年から携わってきました。そういうことの中で、国立公園という前提の
話の中では、私たちが役員をしている中で、魚つき保安林という言葉は皆さんご承知の
とおりと思うんです。何のために自然を確保してきたか、それに英虞湾の沿岸線、必
ずどこの地区でも海岸線幾ばくか距離をおきまして魚つき保安林として触れない地域
があるんです。これは市役所の役員さんだったら皆わかっと思う。やはり、落ち葉
とかその腐敗したエキスとかそういうことのために、熊野とか紀州地区では、年1回
植林を呼びかけられて行ったりしております。やはり、私は考えてみたら些細なことか

わかりませんが国立公園として美観の1つでもあることだし、海岸線があかむけになっていくのと、魚つき保安林として青々としていくのがいいのか、この辺のところも1つ考えてほしいなあとこのように思っております。

西尾副会長

はい、ありがとうございます。すべてが海に繋がっているということですね。このあたりが重要なポイントかなと思います。他に皆さんどうでしょうか。昔、中国でお米を沢山作っていて、すずめは害鳥だから皆殺してしまえ、ツバメはいいと……。結局全部殺してしまったら虫がいっぱい発生して結局駄目になったということで、バランスが大事という話なんですけど、本当に繋がっていて、そのあたりのバランスをよく考えていく。特に志摩地域というのは、国立公園で96%民有地というわけでありまして、こういったバランスを考えるのは、非常に重要な大事な国立公園なのかなあ。自然を守ればいいという問題ではなくて、生活をしているということで、バランスというところがキーワードなのかなと個人的には思っていますが、皆さんそのあたりはどうでしょうか。

雨宮委員

今、バランスというお話でしたけれども、国立公園としてのバランスという点でいきますと、おそらくこの中で、国立公園の法規制は何をやっているんだろうと思っておられる方もいらっしゃるんじゃないかと思いましたが、この説明をさせて頂きたいと思ったんですが、国立公園の中では、先程も申し上げたような志摩市においては、英虞湾と周辺の山、あとは点になってきますけれども、青峰山とか伊勢神宮に至る道路沿い、パールロード沿いとかは特別地域に指定されていて、その中で国立公園らしい雰囲気味わって頂くための展望施設なんかを整備させて頂いています。そうした所からは、太陽光発電施設がほとんど見えない形で許可なり届出を受付させて頂いておりますけれども、おっしゃるように全て繋がっていることでして、このことが水産業に与える影響とかあると思います。その部分までは、なかなか国立公園の自然環境の保護というところからでは、なかなか手を出しづらいというところがあります。法規制の他に考える道もいくつかあるんじゃないかということで、実際そういった太陽光発電事業をどういった人がやっているのかということも知っておく必要があるのかなと思います。これは、私の口からは言えませんが、地域の外でやられている都会の開発事業者も沢山いれば、この地域の中でやっている事業者の方もいるわけです。そういった人たちに対してどのような会話をしていくのか、それに対してどういう産業をこの地域で育てていくのか、どちらを地域として守っていくのか、地域の繋がりを強めていって対策を考えていくしかないのかなとあっていう気がしています。

西尾副会長

ありがとうございます。実はうちの弟もソーラーを結構をやっております。やはり、地元業者さんと県外の大手さんの方が大きなものをつくれるという形が多いですね。非常にそのあたりは、話し合いをしていかなければいけないし。規制も難しいという両宮さんおっしゃたとおりで、そういった繋がりが大事なのかなあと思います。山際さんもおっしゃったけれども、直接関係ない漁業者さんが赤潮発生しているんじゃないか、酸素少ないんじゃないかという話をし、普段から皆さん繋がりを持っているんで、その繋がりが、一対一の繋がりが大勢になって全体になってというのが、すごく大事であってそうしたところをもう少し考えていく必要があるのかな、もう1つ産業界で言えば、漁業と農業どうなの、商工会とどうなの、全然関係ないなあとこの発想を考えると又おもしろいものが見えてくるのかなあというふうに思います。例えば、ちょっと冗談を言います。お茶があります。ちょっと飲んじゃって少なくなって、1つしかないけど、2つ足せばお~い(多い)お茶じゃないですけど、倍掛け算ですよ。掛け算をするということをしっかり考えていくと新しい産業も生まれていろいろおもしろいことが出来るのかな。もう1つは、一対一の繋がりが大勢の繋がりになって市民一人一人がなかなか全員に繋がらないんです。そこに行政の役割であったりとか各種団体であったりとかそれから自治会であったりとかいうところで、何をしなくちゃいけないのか、私は仕組みを作らなくてはいけないと思うんですね。行政は、特に仕組みを作ったというふうに繋がりを持つ場を作ったりとかしていく必要があるのかなと思います。そのしくみを皆で考えていく必要があるのかなと思っております。そんな感じのところ、皆さん意見をもらえればなあと思ったりしているんですが、いかがですか。

井上委員

ご承知のとおり、我々漁業者も高齢化という問題があります。そういう中で、過去魚の多い時に船の建造、又昔のように小さい船から大きな船になりまして今はもう沿岸20マイルや30マイルというのは、普通でございます。しかも、高齢化されていますとやはり山際さんも言われたように、今、かずいきの人が網を掛けたり湾内で事業をします。私は、これからはそういう時代になっていくのではないかと、やはり我々の使命としては、英虞湾を従来どおりの昔のように守って魚の多い海にしていかななくてはならない、これが又1つの観光にも、又お客さんの勧誘にも繋がっていくのではないかな。そういうような中で、我々役員としましては、ノリが今非常に英虞湾業績もよろしいように皆に推進して、かずいきでも出来る事業やないかと奨めております。この前は、五か所湾で外湾として外海へ出ないで、牡蠣の養殖を真珠養殖は少なくなってきたということで、空いた漁場で牡蠣養殖を研究がてら進めております。そういうような時代に入っていくかと、なかなか若い方たちが、ばりばりと事業をやる時代はちょっと遠のいていくのではないかとこのように思っております。

やはり、沿岸を大事にし、又、その魅力として訴えられるような海の構成というものを改めて考えていかないといけないと思っております。以上です。

西尾副会長

ありがとうございます。本当に漁業から派生する部分は、そこが一番取っ付き易いところもあって、生活という部分では非常に大事なのかなと思います。どうですか、皆さん。なかなか意見が言いにくいですよ。

事務局

はい、事務局から口をはさんですみません。志摩市の新しい里海創生のまちづくりというところで、今までの農林水産業を大事にしていく観光業を大事にしていくということも必要なんです。「新しい」という意味で、伊勢志摩国立公園の魅力は今まで観光的な御食つ国という形で食材とか景観を中心に使ってきたと思うんですが新しいという部分で自然に悪い影響を与えずに新しい使い方をしていくということもまちづくりを考えていくうえで大事なことなのかなというふうに考えたりしていますが、私個人的に非常に注目しているのが、浜島なんです。浜島は、昔から行われていました、伊勢えびまつりの神事にじゃこっぺという形で参加型のイベントをうまく組み込まれたりとか、最れているというのか、最近トライアスロンという形で海の環境を使ったイベントをやられていますが、町を挙げてやられているというのか、やりたい人だけで、やっているということではなくて、地域あげて協力体制が出来てそういう人たちを迎え入れてイベントをするという体制が多いのが浜島の地域なにか。他の地域と何が違うんだらうと思ったりするんですが、柴原さん、自治会として地域をまとめていくのに、こんなノウハウがあるんだとか、ここが浜島のいいところだというのがあれば、ちょっと教えていただけると他のところの事業展開に参考になるのではないかと思います、いかがでしょうか。すみません。

柴原委員

やはり、町の人たちが、今おっしゃられたように、みんなが参加して参加できる者も参加できない者もそうした方々も見て楽しむ、参加して楽しむことがやはり大事なのではないかと思います。特にここ3回行われたトライアスロン大会では、当初は第1回目は、合歡の郷の地内でやりました。交通規制も何もしないでも、簡単に走れるものだから警察さんも特に難しいことを言わなくても出来たんですが、参加者が退屈やと若干海は見えるけど山の中みたいなところを走っているだけで、2回目の時に自治会に相談があって、結局自治会がうんと言わないことには、警察さんが道路規制に許可が出ないものですから、みんなで協力しようじゃないかと受け入れたわけなんですけれども、2回目3回目今年と前年ですね、町中を走るようにしたわけです。当初は、よそから来てお

り実行委員のえらいさんとか警察さんは、びっくりしました。そんなこと出来るのかと……。実はまだ何十年も昔の話ですが、私が青年団長をやっている頃に、同じコースを青年団が対抗の駅伝大会をした経緯があって、これだったら出来ると。昔何十年も昔だけど経験があるから出来るかなということで、町中を走ることを受け入れました。トライアスロン大会には、海の魅力、山の魅力ということで日本全国から参加しております。世界のトライアスロン大会の前年の結果で11位の評価をもらったという事で、今年は何位の評価をもらえるだろうかと楽しみにしております。今年の大会では、スポーツ大賞をもらって、これは裏話になるんですけども、副賞を10万円もらって自治会にあげるから何かに利用して下さいと言われてたが、10万円のお金をもらったところで何も出来ないということで、結局町の真ん中に従前あって壊れてしまった太陽光の時計を取り付けてもらうということで話をしました。結局取り付けてもらうということで話はしたが、行政の人でも沢山おられますが、役所で貰って貰って、後の管理を役所でしてほしいと言ったらそんなんやったらいらんと役所に言われ、後々の管理は出来ないと……。止むおえず、後々ずっと自治会で責任持つから自治会が受け入れるというようなことがあって、そうしたイベントに対して町の人たちが皆協力したり、お願いしてないのに勝手に沿道にお店屋さんが氷をサービスしたり、冷たい水をサービスしたり、お家の二階から水道を引っ張って走ってくる人にシャワーをかけたりして、そのようなことをやりながら、その海をメインとした行事をしながら、町中の人たちが協力して頂いて、しかも交通規制に協力して頂いて、しかも交通規制の協力だけでなく水や魚屋さんの前を通ったら氷をサービスしてもらって、それをもらいながら走ったとかいうような沢山のアンケート結果も出ております。特に海の景色が非常に良いと、しかもスイミングの人たちが泳いでいくのに、足がつかえないかなと思えるくらい底が見えると、スイミングという競技に参加しながら魚の泳いでいるのが見えたとかそういうアンケートが沢山出ております。そうした海と人とそれから全国から人が集まってくるということの大事さ、過疎になりつつあるような町でも、町の人たちが喜びを感じられることが自然の恵みのありがたさかなあとそんなふうに思っております。

西尾副会長

はい、どうもありがとうございます。非常に素晴らしいお話を聞かせて頂いたなあというふうに思います。先程もありましたように、自然と人、人と自然との共生が里海というのが、ここにもちょっとありますけれども、人が大事なのかなあと思います。浜島の人たちは、本当に町が小さいということもあって、神祭があったりとか皆さん総出で昔からいろんなことをされている地域で、日頃の繋がりが非常に強いところかなと思います。そういったところで、一人がやると、お茶、おれもおれも私もと、お手伝いして頂いたり、前向きにちょっと見に行っておようやとかそういう感じで声掛けして一人で行くんじゃなくて隣近所に声掛けてちょっとやってみようとかそういう話のとき

ろなのかなというふうなところが浜島の良さであり、志摩全体の良さでもあるというふうなところかなと思います。

違う話なんですけど、インターシップというのがありまして、子供たちが実際の大学生だったり、高校生もあり中学生もあるんですが、職場体験をするわけですね。その時に行って一番良かったことは何かといたら、「ありがとう」と言われたこと、これが仕事をする意義は、これなんだ。人から感謝される、喜んでもらえるというところに感動を感じる。これが仕事なんだということを言われた方がみえるということで、先程来て頂いて喜んで頂く、何もしなくても、お水でシャワーをかけましょう、そういった人・おもてなしに繋がってくるんですけど、里海と自然と人というところの共生のキーワードというかそんな気がしますが、みなさんそのあたりどうでしょうか。

高山会長

遊覧船に乗った後、渡鹿野島に泊まりまして、風待港の温泉に入ったんですね。風待港の由来がどこにも書いてないんですよ。これは、もったないなあと……。要するに太平洋航路というのは、すごく大変だんですね。偏西風が常に吹いているし、黒潮があるのでちょっと間違えると遭難してしまうんですね。そこで、風が本当にいい時しか行けないんですよ。次は下田まで行かないといけないということで、長い時は1か月も待つんですね。日和山に登って、毎日風向きを見ながら今日だと言って出るわけです。だから風待港だとそういう説明がないんですね。ところが、地元の自治会の人々が作っているいさりび会というのが、昭和21年から風待港の由来を調べてウォーキングコースにして地図まで作ってやってるんですね。私電話してここを歩かしてもらったんですけど、本当にうまく自治会の人いさりび会が説明してくれるんです。ところが、未だに毎年の計画書の中に、いさりび会出してくれないんですね。だからそういう隠れた人が結構いるという、さっきの遊覧船の船長さんの話じゃないけど、やはりそういう人にどんどん参加してもらって、繋がって、一度遊覧船の船長のいいお話を聞くとイメージがわくと思うんですね。もう1個米澤もち麦があって、私大好きなもち麦で、志摩に住んでいた米澤さんが戦後すぐ美味しい麦がないので、なんか麦飯というつまずいというイメージがあったけど、自分で作りたいと品種改良して作った、それがすごくおいしいんですね。ところがなかなか売ってなくて「志摩市の駅前のお店で米澤もち麦ないですか」。って言ったら、「え、何ですか？それって……。」と言われたんです。だから、そういうのは、ちゃんと出していければと思います。

西尾副会長

はい、ありがとうございます。あの灯台下暗しということで、地元の人が地元のことをよく知らないというのは、よくある話なんですけれども、やはりそういった情報を共有していくことがすごく大事なのかな。それと子供たちが郷土愛を持っているという方

向に繋がってくるのかなというふうに思います。今のうちに、そういったいろんな情報を出してもらって皆さんと共有出来ればと思いますが、どうでしょう。今日は、いろんなお話を何でもいいので、出して頂ければそこからいろんなものが繋がってくると思いますので、いかがでしょうか。よろしですか。なさそうですので、私共の方から観光協会として来年商工会と一緒に新春賀詞交歓会を行います。これは、商工会が、1月6日に毎年やっておりまして、これから産業連携をしていくという部分で、会員さんもだぶっているところもあるんですが、別々でやっていたのを1つにして産業界の連携をもう少し交流をしっかりと行って来年1月6日には、観光協会が商工会の新年会に乗かってやると、その次の年には共同で開催をしてもっと大きな違う団体さんも含んで一緒にやっていけば地域の活性化に繋がるのではないかと産業界の連携ということで進めていきたいというのが、1つあります。又、実は観光協会の方でここにも出てきている観光ボランティアという話なんですけれども、今日事務局に話をしたのは、具体的に市の方でも今動いています。それからボランティアをされている方もみえます。それぞれが別々に動いているんですが、本当は一緒にやりたいんですが、一遍に出来ないの、観光協会は、観光協会が進めようというふうに思っています。何をやるかという、テキスト化して検定をして、認定制度を作りたい。そのあとには、実際に観光の地域研修もして頂いてそれを合格した人は、観光協会認定の観光ボランティアとして有償・無償のしくみを作っていきたいと……。その方たちが検定に合格した人で、知識・教養を身に着けたいという方もみえますし、実際にボランティアしたいという方もみえますので、それはそれでいいと思います。子供たちに勉強した事を伝えていくことによって、子供たちがこんなに志摩はいい所なんだと、先程の米沢もち麦のことでもそうなんですが、そういったものがあるんだよという勉強をしていくと都会に出て行っても、また将来は帰ってきたいというふうなことで、人口の減少にも歯止めがかけられないかというのがあります。ただ、ネックになっているのが、志摩に帰ってきても、仕事がないから生活が出来ないという方が非常に多いんですね。このあたりをどういうふうに考えていくかということで、協会の方で考えているのは、例えば語学を堪能にしてください、今外国のインバウンドの方沢山みえてそういった通訳という仕事がこれから増えてくるんじゃないかというところで、こちらへ帰って来て頂いてこういったことをすれば生活が出来るとか IT 関係が世界中で伸びているわけなんですけど、企業でいろいろデータ取るとですね上位は IT 関係、田舎であっても IT 関係は出来るんですね。ソフト開発したりとかそういったことを今の世代にあった仕組みを作る。あるいは、会社に就職するという発想ではなくて、起業化する。自分で作り出すというふうなことをしていく。そういう教育もしていけばいいんじゃないかなと、そうしたらこちらでも十分生活出来ると……。自然もあってすごくいい所で生活しながら仕事も成り立つよと、生活が本当に出来ていくよという仕組みを作っていくための観光ボランティアの養成ということを観光協会が進めていきたい。先には市がやっている各種の任意でやってい

る所と共同で大きな仕組みを作っていきたいというふうに思っています。

高山会長

それでは、まとめといいますか、今後どのように展開していくかという話をしたいと思います。それで、今日は3つの分科会がいろんなワークショップの中で提言までまとめたということです。作業部会の構成メンバーは、どこか資料にありました。そういう方々が20人以上分科会を作って検討して頂いたということになります。確定ではないので、今日発表して頂いた提言と具体的なアイデアが満載しているA3のものがありますので、委員の方は全部目を通して頂いて各団体でどういうことなら出来そうだといいことを話し合ってください。そして、次回の委員会の前に日取りを設定しますので、それくらいまでに、こういう話をしましたということをご報告して、それをまとめて次回の資料にしたいと思います。そういう手順で今後進めていきたいと思います。次回が何月くらいになるか、そのお返し頂く締切が何月くらいになるかというのを決めていきたいと思うのが1つ、もう1つは、当初この協議会は、地域別の分科会をもとうということになっていたんですが、まだ1つも地域分科会は発足していないわけですね。ぜひ、第2期になりましたので、どこかで出来ることから分科会を作りたいというふうに思っています、そのあたりの提案を事務局の方からして頂いて皆さんに諮って頂きたい。時間もあまりないんですけど、どういう提案なのかということを確認して頂きたいという事です。それが2点目ということになります。まず、次回の協議会がいつ頃になるのかと、また締切がいつ頃になるかということをご報告ください。

事務局

それでは、会長の方からご説明頂いた今後のスケジュールについて、もう一度確認させて頂きたいと思います。前回の協議会で優先項目を3つ決めて頂いてその後作業部会で具体的にそれにどういうことに取り組んでいけばいいのかという話し合い、それから参考資料にありますけれども、その成果を確認していくのに、こういう指標の数字とかですね、確認していけばいいんじゃないかというアイデアを頂いております。参考資料には、既存の事業としてすでにこういう事業もやっておりますよねといったことも、拾える範囲内で拾い上げをして一覧表にさせて頂いております。これから第二期の協議会で委員の皆さんもそれぞれまちづくりの事業に積極的に取り組みを進めて頂くということで、3つの優先項目について、それぞれの委員さんの団体がこういう事業を沢山でもいいのですが、1つ2つでも結構です。こういうことに取り組んでいこうというような事をご検討頂いて、年末くらいを目途に一度事務局の方から聞き取りをさせていただきたいなあとと思います。ちょっと、まだ様式とか具体的にどういう形でとりまとめるかというところまで決まっておりますが、年末くらいを目途に第2期の期間中でこんな事業をやっていきたいというようなことを聞き取りをさせていただきたいと思います。

第3回の協議会は、1月の末か2月の上旬の頃になるかと思いますが、その時に皆さんからお出し頂いた事業内容を整理して具体的にどういうことをやっていくのか項目単位とかで成果が出てきている、出てきていないという判断をどのようにするのかということについて、又ご検討を頂きたいというふうに考えています。来年以降それらの取り組みがどのように進められたか取り組みについても、どのようなことが行われてどのような成果が出ているのかについて、皆さんで確認をしながら、まちづくりが進んでいるのか進んでいない場合には、どういうふうに変えていこうかということをご議論頂くというのが、第2期の取り組みの進め方になるかなというふうに考えます。

高山会長

地域協議会のお話は、どうですか。

事務局

皆さんに具体的な取り組みをご検討頂く中で、今大体志摩市全域にかかる議論について主にやられてきたと思うのですが、的矢湾のエリアであったり、英虞湾のエリアであったり、太平洋のエリアであったり、特定のエリアの中で、特にいろんな関係者の方が集まってどうしていくのかを考える事が必要だということもあるかと思えます。そういった場合には、流域別の分科会を開催するということが、里海の協議会のお手元の計画書の18ページをご覧頂きますと、協議会でみんなが進捗管理をしていく中で、沿岸域ごとの取り組みの検討と調整を行う英虞湾とか的矢湾とか太平洋の分科会を置くことが出来るということになっておりますので、特にみんなで話をしているよりもこういう特定のエリアの人で集まって協議する場があった方が、取り組みが進みやすいといった場合には、分科会の設置についてもあわせてご検討を頂いてご提案頂きたいと考えています。

高山会長

だから、地域別の分科会が必要であれば、寄せて頂きたいということなので、これも年末までに寄せていただければいいですね。ということで、今日の議題が大体終わったと思います。団体からこういった仕組みだったらいいよという提案でも結構ですので、議論して頂いて事務局から聞き取りをされるということなので、その時に報告して頂くということになるかと思えます。地域別協議会に関して、もし何か考えていることがあれば、どうでしょうか。的矢あたりでどうでしょうか。

北村委員

鳥羽磯部漁協の北村です。今まで4、5年会議に出させてもらってほとんどが英虞湾関係のことばかりできた中で、私共の漁業をしている的矢湾の関係、そういう部分は手

をつけられていないとかされていない部分がありますので、地元の漁師さんという話をする中で、地域協議会なりに出席して頂いて、そこで案を出していきたいと思えます。

高山会長

他にどうでしょうか。今日オブザーバーで後ろに座ってみえる三重大大学の荻原先生は前島の方で議論する課題があるんじゃないかと言われてますので、ちょっと何かありましたら・・・。

荻原教授

三重大大学の教育学部の荻原といいます。今日ちょっと高山先生にこういう会があるからオブザーバーで参加しないかと言われて参加させて頂きました。電車の中でいろいろ話してきたんですけども、教育委員会とかです学校先生とかの集まりで、聞かせて頂くと今小学校が統合して前島なんかは、1校になってしまう。そうすると、地域の海と今までの学校が築いてきた関係がどうなるかというところが、いろいろ先生方も悩んでみえるし、地域の方もどうなるんだろうと思っておられるところだと思ってるんですが、かなり広い地域に1校の学校になってしまうので、恐らく何らかの仕切り直しが必要ではないかということなんです。あまりいいアイデアは特段あるわけではないんですけども、ある意味新しい地域との関係を作り直すチャンスでもあるということを見ると、これは雑駁な考え方なんですが、重いかもしれませんが、なんか広い地域になってしまうと学校の先生だけで地域との関係を築いていくのはなかなかたぶん難しいだろうと、そうすると間に立ってコーディネーターのような機能を持つ組織、出来れば人が必要になるんじゃないかというふうに思っています。私も環境教育専門で、あっちこちの自治体で調査したこともありますけれども、そういう中では、専属といいますか学校と地域をつなぐコーディネーターを置いて学校と地域を繋ぐ活動をしているところもいろんな所にありますから、例えばコーディネーターを学校なり教育委員会なりにおいて、その人たちが地域の学習資源とか地域の人たちと学校をうまく繋いであげる、先生もその人たちと一緒にカリキュラムを作ると先生のカリキュラム構築能力も高まっていくというような研究もみたことがありますし、何かコーディネーターを学校や地域内に置くという事も一つのアイデアではないかなというふうに思っています。ちなみに、里海学舎という話をお聞きしますと、まさに里海学舎がそういうようなコーディネーターの機能を果たすには、最適などころではないかとちょっと勝手に思っています。ちなみにそこにフルタイムの人をばっちり張り付けると非常にお金がかかるという話だと思いますけれども、これも私の勝手な話なんですけれども、大学院でドクターまで取ったんだけど、いわゆる常勤の職員につくにはあちこち修行して回らないといけない、ポスドクというのがあるんですね。ポスドクの人たちなんかが、研究的な仕事・

教育的な仕事を求めているので、それほど常勤の人ほどの給料は必要としませんし、そういう人たちを短期間雇って、その人たちに学校に回ってもらったりする。いずれそういう人たちは常勤の研究職みたいな所に行ってしまうけれども、又次の人をというふうにある程度短期で回すことが出来るようなポストを作ってその人たちが学校と地域をうまくコーディネートする。もちろん研究ばかりしている人を持ってくると困るので、ちゃんと教育に関心ある人を雇わないといけないんですけれどね。聞いてちらっと考えました。失礼しました。

高山会長

まあ、こういう地域単位で話をする係があるのではないかという話です。そういうことに習って、考えて頂ければと思います。じゃあ、これでよろしいでしょうか。最後の閉めをお願いします。

事務局

それでは、2時間びっしりと長時間に亘り、どうもありがとうございました。次回の協議会は、1月の23日の週もしくは、30日の週あたりに設定させて頂くことになると思いますが、年内を目途に皆さんの所にそれぞれどういう形で今後取り組みを進めるかということで、又、お伺いにまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。長時間本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

(散会)

